

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 生和 多恵子

1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	東北西6(男鹿駅～五里合漁港)
歩行区間詳細	スタート地点: 男鹿駅 経由: 男鹿半島
	ゴール地点: 五里合漁港
実施期間	2022.8.26 ~ 8.30 (28日 休養日)
全歩行距離	59.3 km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	歩行	生和多恵子	21期		
2	送迎・歩行	生和 光朗	21期		
3					
4					
5					

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	8月26日	男鹿駅～樺漁港	9.3 km	生和多恵子	
2	8月27日	樺漁港～桜島	12 km	生和多恵子	
3		桜島～入道崎	17 km	生和 光朗	
4	8月29日	入道崎～北浦港	12 km	生和多恵子	
5	8月30日	北浦港～五里合港	9 km	生和多恵子	

4. 参加費

参加者延べ日数 5日 * ¥100

参加費合計 ¥500

5. 歩行の詳細

(1) 歩行形態

歩行者 生和 光朗・多恵子は男鹿市に在住。歩行を実行したのは8月末とはいえ、残暑が厳しい日が続いていたので、日中を避けて午後2時以降から夕暮れまでの時間帯で、歩くようにした。(8月27,29日比較的涼しかったので、午前中から歩くことができた)

歩行開始地点、終了地点⇄自宅の移動は車2台(光朗、多恵子それぞれの車)を使用した。

(2) 行動記録

①8月26日 14:36 男鹿駅前道の駅「オガレ」に駐車、歩行開始。この駐車場には「アガレ」と命名された津波時の避難倉庫がある。公共のものにこのように安易な？名前を付けたくなる文化が男鹿にはあるらしい。水族館は「GAO (ガオ)」男鹿駅の再開発で3年前にオープンした道の駅は「オガレ」、水族館の主演、ホッキョクグマ「豪太」と「クルミ」の間に生まれた子は「ミルク」..など。

まだまだ日差しは強く、船川港沿いに海風を受けながら、「秋田国家石油備蓄基地」前の道に行く。海岸線に沿う南平沢明王堂の集落内の道を辿り、男鹿半島線(59号)に出る。15:37, ここからは海とともに、歩き続ける。水平線上に鳥海山が顔を見せている。鳥海山が現れるのは、明日以降の天候が崩れる兆し。

*南平沢明王堂の集落は備蓄基地が広大な海を埋め立てて造られる前の船川の小さな漁港の村だった。



海岸にぼつぼつとたっている「鎮魂」の石碑は、男鹿の暮らしが遠い昔から、海の優しさと厳しさのはざままで過ぎてきたことを私たちに伝えてくれる。16:30「鵜ノ崎海岸」着。ここは日本の渚百選にも選ばれている美しい海岸。遠浅の磯浜で引き潮の時は水平線に向かって、どこまでも磯が続く。こんなに素晴らしい海岸であるが、男鹿の夏は短く、海水浴を楽しむ人で混み合うような光景は見かけない。もちろん海の家などの施設もなく、トイレと自動販売機があるだけ。とはいえ、男鹿も年々夏の暑さは厳しくなっていて、持参した水筒はすぐ空になり、歩行が進まない。計画した五社堂までは程遠い。17:03, 椿港、「能登山の椿」に到着し、ここで迎えを待つこととした。

*「能登山の椿」 古びた小さな祠が立つ、ヤブ椿が自生する小山(能登山)。この辺りは椿の自生の北限とのこと。



②8月27日 土曜日なので、生和光朗と2名で 椿港～入道崎を分担して歩く。

多恵子; 10:03、椿漁港出発 「椿の白岩」が明るい日差しを受けて、白く輝いていた。車で通りすぎる時は気が付かなかったお地藏様を見つけた。JRのポスターにもなった「ゴジラ岩」は日の沈む夕暮れ時以外は情けないただの岩。11:00過ぎ、門前町に到着。ここから、海から船でしか見ることのできない絶景が続く男鹿半島一番の見どころが始まる。歩く道はその断崖絶壁の上の際を縫うように、激しい登り下りを繰り返す。なまはげ伝説の五社堂入り口から天気具合によって、鳥海山が海のかなたに浮かび上がり、人々の極楽浄土への思いをかきたてたに違いない。五社堂は入り口から999段の石段を上ったところであり、さらにその先には男鹿本山を経て、真山～真山神社に続く、男鹿の「お山かけ」と呼ばれる信仰の道である。

数分歩いたところで「強清水」の古い道標を発見。道から降りていくと、滾々と冷水が湧いている。無縁仏の墓標が沢山、祭られていた。命がけの信仰の果ての成仏だろうか。



* 「椿の白岩」：約2100万年前の火山活動でできた火山岩



土曜日というのに、車の往来に出会う事は少なく、男鹿の唯一の観光道路というのに、人の気配が薄くましてやウォーキング姿の人など、いるわけもなし。ときどき、鳶か鷹らしき猛禽類が悠々と上空を円を描いて飛んでいる。アスファルトの上で、きれいなカミキリムシが標本になっている。少々心細い気分を抱きながら登りが陰しくなってきた道をどんどん上っていく。海から見える洞窟や滝などの名勝には、標識がたっているが就航している遊覧船に乗るしかないが、「時化のため本日欠航」が多く、なかなかチャンスに恵まれない。

加茂漁港への降り口を通過、あと一登りで今日の歩行の終点である桜島だ。13:33到着。光朗が乗り捨てた車にて、入道崎を目指す。



光朗； 10:20 桜島に到着。車を残して歩行開始。道は戸賀湾の隅に立つ水族館 GAO を目指して、緩やかに下っていく。 11:10、男鹿半島では一番大きな湾である戸賀湾沿いの道を明るい穏やかな海を眺めながら、歩く。ここから入道崎へはこれまでのように海岸線を辿ることはできない。海岸から離れ、男鹿温泉方向に向かう59号線、121号線（入道崎・八望台線）と辿り男鹿半島の最突端、入道崎を目指す。

これまでの道中は、険しくとも左隣には雄大な海の絶景が常にあったが、ここは両側にうっそうとした森が続く山道で、歩みが進まない。13:00を過ぎるころ、やっと海岸線が見えるあたりに出た。海に向かって突き進むようなまっすぐな道を、ひたすら歩いていく。 13:40後ろから迎えの車がやってきた。入道崎に沈む夕日にはまだ間があるので、桜島の金ヶ崎温泉で、ひと風呂浴びて汗を流す。美しい夕日の写真が撮れた。



③ 8月29日 14:00 入道崎出発。入道崎寒風山線（55号線）を避けて海岸線沿いの道を辿る。入り江ごとに小さな船着き場のような港があって、周辺に集落があり、その中の狭い曲がりくねった生活道路を歩く。村のはずれに廃校となった北磯小学校があった。今は3件に2件は空き家と思われる家並みが続く寂しい村の様子だが、この小学校に通った子供たちはどこに行ってしまったのか。たまに見かける人影はお年寄りばかりで、秋田の深刻な人口減少を目の当たりにする。できるだけ、海岸わきを通る道を選んであるきながら、15:35、男鹿温泉に到着。

男鹿半島には、温泉入浴施設がたくさんあるが、旅館がいくつか並んでいて温泉街の体をなしているのはここだけ。寂れたとは言わないが、静かな海の絶景に囲まれた温泉である。温泉街のはずれに、サービス付き高齢者住宅の看板を見つけた。新しい施設で温泉付き、こんなところを終の棲家にするのもおつなものか。



海岸沿いを進めなくなると、入道崎寒風山線（55号線）に戻り進み、また海岸沿いの道が見つかるそちらの方へ、というやり方で歩き続け、北浦港に17:15到着。今日はここまで。



④ 8月30日 14:00 北浦漁港出発

昨日の雨交じりの夕方に比べ、良い天気。同じように海岸線沿いの道を探しながら、進む。男鹿半島をくまなく歩いた菅江真澄の道、染川城跡に出くわす。藪の坂道を上ると石碑が二つ。この城あとはかなり古く、平安時代位に遡る。

男鹿半島の北側の日本海岸線は、人の気配の少ない、静かな道であるが、写真のような突然の「浜のソバヤ」が現れる。めったに開業しない蕎麦屋であるが「ぎばさ」という男鹿の海藻を練りこんだそばは美味しい。この辺りは海岸線に沿って、豊かな畑や田んぼが広がっている。広い畑の先に海が広がる景色は圧巻。夏の畑にはひまわりも元気よく咲いている。17:30五里合漁港に到着。男鹿半島周遊はこれにて終了。

